

引き継いだ言葉

陳 思遥

(元)富士ゼロックス㈱ラフィネ小豆沢

(元)文化学園大学

さようならを告げるような追悼文をなかなか書けませんでした。何を書こうと考えたら、いつも既成概念と相違する論理を持ち、粹に囚われない考え方をしているお方なので、太田さんから頂いた私なりにとても勉強になった言葉を共有したいと思います。

多くの留学生にはこう感じたことはあるでしょう：海外留学しているなら、必ず一個人ではなく、母国の代表者として見られている——自分の喋りや動きなどが他人から見ると、「xx人はこういう喋りや動きをするものだ」と認識される。当たり前ですね、だって母国にいれば私たちも同じことしているだろうし、日本にいる今も外国人を見たらすぐこうした目で見るとでしょう。

しかしある日、太田さんに言われました：“君のことは中国人として見てない。”

“え、ちゃんと中国人ですけど。”と笑いながら返したら、“君のことは、チンシヨウとして見ている。”と言われました。

“君の名前はチンシヨウ、メガネかけて、デザインを勉強していた女の子だ。”

そう言ってくれたのです。

その言葉にびっくりした上、心底から嬉しく思いました。

留学して最初の頃にやはり周りにいい印象を与えたいし、中国人に悪い印象を持つ日本の方も多いので、恥をかかせない恥をかかせないとばかり考えて慎重に過ごした日々もありました。今はそこまでキャラ維持に頑張っていないが、その言葉を受けた時、一人の人間として見られるだけでこんなに肩軽くなるのかと思いました。

“今の人やマスコミがよく何々人とすぐ人種で人言うね、ふざけるな。だって目の前にいるのはちゃんと自分の性格と趣味を持っている誰とでも違う一人の人間でしょ。”

太田さんは言っていました。

“中国人・韓国人・アメリカ人・インド人じゃなく、デザイナーの陳さん・物理を勉強しているキムさん・撮影が好きなトム・バスケのできるバンダリさんとして見るべきだと思う。”

恥ずかしいことに自分もよく他人のことを人種で見えてしまいました。自分はその場で太田さんの言葉で肩の重みが抜けたら、他の外国人にも同じなんじゃないでしょうか。

人は国籍で見ないことって、こんなに大事なことなのだと始めて気づきました。

留学して本当に得られるのは、ずっと同じ環境の中では永遠に分からない既成概念への見直し方だと思います。それも、いつも太田さんから学んでいたことです。

いつもふざけているように見えるけど、実は彼は進んでいる考えを持つ、いつもわたしを導いてくれる先生なのです。

風呂上がりにドライヤーで髪の毛を乾かしている時、工作中ちょっとした空想の時、一人ご飯の時、よくふっと太田さんのことを思い出します。コロナが襲ってきたごろ、太田さんに体気をつけてのメールを送ろうとしたら、手が止まったこともありました。今思うと、世界中をパニック起こしている 100 年に 1 回とでも言える最大なコロナウイルス危機に、太田さんとは遭遇しなくて済んでよかったと思います。

協会で沢山の留学生と知り合い、中にとっても仲良くなった子も多くいました。太田さんはいなくなっても、私たちでこの太田さんが頑張ってくれたつながりの場を大事にしなければなりません。

また忘年会でまたみんなと会いに行きたいと思います。